科目名	電気理論		英文名	Electric	Theo	ory		学科科目 番号	1-1
担当者	三井 和	一郎、藤井 弘志	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目区分	専門科	目・講義
開講期	通年	前期: 6時間(回数	::15 回)	後期: 4	時間((回数:1	5 回)	授業時数	150 時間
教材 教具		言工学科作成テキスト、 改訂 18 版 (電気書院) 、							
担当者 の実務 経験		一郎:家電修理専門会社 理、および電気 志 : 電設会社におい	主任技術者						

【学修内容】科目のねらい(目的)

電気工学の基礎である電気回路、電流と磁気、静電気、交流の性質、交流回路、ひずみ波交流、過渡 現象について理解することを目的とする。

2 3	電気計算① 電気計算②		1	ビオサバールの法則						
3			1							
	承与31 答 (6)		2	アンペア周回路						
1	電気計算③		3	磁気回路						
-	抵抗の接続		4	電磁力						
5	オームの法則	IJ	5	電磁誘導回路						
6	電気抵抗の計	十算	6	静電気の性質						
7	前期中間試験		7	後期中間試験						
8	分流と分圧		8	静電容量とコンデンサ						
9	キルヒホッフ	アの法則	9	直流と交流						
10	導体材料の性		10	正弦波交流の表現						
11	電流の発熱作	宇 用	11	ベクトル表示の計算						
12	ジュールの法	 長則	12	正弦波交流の基本						
13	磁界と磁束		13	三相交流の性質						
14	クーロンの活	去則	14	結線方法と計算						
15	前期期末試験		15	学年末試験						
	受業方法 業の進め方)	教科書を基に、演習問題やプリ ら行う。	リン	ト、電気工事士の過去問題等を多く取り入れなが						
3	到達目標	電気における各種の法則や公式	弋を理	里解して計算ができること。						
	:績評価の :法と基準	・年間4回の中間・期末(学年末・随時行う小テスト:20% ・授業態度、課題などへの取り終 以上3項目を合計し、評価点を1	且み等							
	時間以外に 要な学修	・自宅学習による授業ごとの予習 ・課題、レポートは期日までに作								
	に当たって の留意点	的な姿勢があるかどうかなどの	▷素 0	民り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極 の行動を評価するものである。 後成認定校としての基準を満たす必要がある。						

					※授業の	ひ 1 単位	時間は 45	分とする			
科目名	記線図		Wirin	ng diagra	m		学科科目 番号	1-2			
担当者	三井 和一郎、藤井 弘志	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目	・講義			
開講期	通年 前期: 2時間(回数	:15 回)	後期:	3時間	(回数:	15回)	授業時数	75 時間			
教材教具	電気通信工学科作成テキスト、	第二種電気	江事	土筆記試験	模範解答	集 2025	年版(電気	〔書院)			
担当者 の実務	三井 和一郎:家電修理専門会社 理、および電気 ※井 弘志 :電設会社におい	主任技術者									
電気工	【学修内容】科目のねらい(目的) 電気工事士として必要な、日本工業規格に基づく電気製図に関する基礎的な知識や技術を習得し、製 f図・設計図を正しく読み解き、図面を構想し作成することを目的とする。										
【授》	業計画】 コマシラバス(前	期)		=	ロマシラノ	ベス(後	期)				
1 配線相	材料の学習		1)	屋内配線図	用の図記	号(1)					
2 練習問	問題		2	屋内配線図	用の図記	1号(2)	ı				
3 電線の	の記号と種類		3	屋内配線図	用の図記	2号(3)	ı				
4 練習問	 問題		4	屋内配線図	用の図記	1号(4)	l				
5 スイ:	ッチの種類		5 1	复線図と配	線条数						
6 練習問	問題		6	低圧引込線の施設							
7 前期。	中間試験		7	後期中間試験							
8 コンプ	セントの種類		8 1	氏圧屋側電	— 線路の施	設					
9 練習問	問題		9	9 引込口における開閉器の施設							
10 コンコ	セントの形状		10 電路の絶縁抵抗								
11 練習問	問題		11 電路の接地工事								
12 配管の	の記号と種類		12	小勢力回路							
13 練習問	問題		13	濫別							
14 新配約	泉図の学習		14	材料選別							
15 前期	期末試験		15	学年末試験							
授業方 (授業の進	教科書を具に 角巻	問題やプリ	ント	等を取り入	れながら	行う。					
到達目	標 電気配線図におけることができること。	シンボルを	·覚え	、電気工事	に必要な	記線図	を理解して	作図する			
成績評値 方法と											
授業時間」											
履修に当7	一円が姿勢があるかどっ	かなどの平	素の	行動を評価	するもの	である。					

科目名	機器工具	1	英文名	Equipment tool				学科科目 番号	1-3			
担当者	三井 和	一郎、藤井 弘志	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科	目・講義			
開講期	通年	前期: 4時間(回数	::15回)	後期:	5 時間	(回数:	15回)	授業 時数	135 時間			
教材 教具	教材 電気通信工学科作成テキスト、ポイントスタディ方式による第二種電気工事士筆記試験受験テ											
担当者 の実務 経験		一郎:家電修理専門会社 理、および電気3 志:電設会社において	主任技術者	•								

【学修内容】科目のねらい(目的)

電気工事士として必要な、日本工業規格に基づく電気製図に関する基礎的な知識や技術を習得し、製 作図・設計図を正しく読み解き 図面を構相し作成することを目的とする

作図・設計図を正しく読み解き、図面を構想し作成することを目的とする。								
【授業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス (後期)					
1 三相交流(1)	1	3路スイッチ回路					
2 三相交流(2)	2	4路スイッチ回路					
3 三相誘導電	動機の原理	3	電気工事と工具					
4 三相誘導電	動機の始動法	4	ケーブル工事の材料と工具					
5 Y-△始動	器、速度制御	5	金属管工事の材料と工具					
6 三相誘導電	動機の始動トルク	6	合成樹脂管工事の材料と工具					
7 前期中間試	験	7	後期中間試験					
8 まとめ(1)		8	まとめ(1)					
9 まとめ (2))	9	まとめ (2)					
10 蛍光灯と照	明器具	10	変圧器の原理と構造					
11 放電ランプ	について	11	変圧器の定格と特性					
12 ネオン放電	灯工事	12	変圧器の結線と出力					
13 特殊機器		13	変圧器の損出と効率					
14 まとめ		14	まとめ					
15 前期期末試	験	15	学年末試験					
授業方法 (授業の進め方)	教科書を基に、演習問題やプラスである。	リン	ト、電気工事士の過去問題等を多く取り入れなが					
到達目標	電気工事士として必要な機械。用できること。	とエリ	具の使用方法を理解し、工事現場にその知識が応					
成績評価の 方法と基準	・年間4回の中間・期末(学年デ・随時行う小テスト:20% ・授業態度、課題などへの取り約以上3項目を合計し、評価点を	且み等						
授業時間以外に 必要な学修	・自宅学習による授業ごとの予覧 ・課題、レポートは期日までに付							
履修に当たって の留意点	的な姿勢があるかどうかなどのゴ	平素の	民り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極 の行動を評価するものである。 &成認定校としての基準を満たす必要がある。					

科目名	検査方法	去	英文名	Electric	al tes	hods	学科科目 番号	1-4			
担当者	三井 和	一郎、藤井 弘志	実務経験 の有無	有	選択 必修 科目 必修 区分		専門科	目・講義			
開講期	前期	前期: 2時間(回数	(:15 回)	後期:	時間	(回数:	回)	授業時数	30 時間		
教材 教具											
担当者 の実務 経験	藤井 弘	一郎:家電修理専門会 理、および電気 志:電設会社におい	主任技術者	•							

【学修内容】科目のねらい(目的)

電気工作物の維持・管理を行うために必要な、各種の検査方法や測定器の取り扱い方法について理解 することを目的とする。

することを目的。	とする。							
【授業計画】	コマシラバス (前 期)	コマシラバス (後期)						
1 電気工作物の	の検査、測定器の種類	1						
2 導通試験		2						
3 絶縁抵抗測第	定、接地抵抗測定	3						
4 その他の測算	定器	4						
5 力率の測定		5						
6 分流器		6						
7 前期中間試験	厥	7						
8 電気計器		8						
9 電圧・電流の	の測定	9						
10 電力の測定		10						
11 線路電流の泡	• =	11						
	定範囲の拡大	12						
	定範囲の拡大	13						
14 計器の種類。		14						
15 前期期末試験		15						
授業方法 (授業の進め方)	教科書を基に、配布プリントペ	や過去問題等も多く取り入れながら行う。						
到達目標	電気設備の各種検査方法や測定	定器の取り扱い方法が理解できていること。						
成績評価の 方法と基準	・中間・期末試験:50% ・随時行う小テスト:20% ・授業態度、課題などへの取り約 以上3項目を合計し、評価点をご	組み等:30% 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に 必要な学修								
履修に当たって の留意点	- 上的な姿勢があるかどっかたどの半素の行動を評価するものである							
_								

科目名	保安法令			英文名	Electric	al law	ler	学科科目 番号	1-5		
担当者	三井 和一郎、藤井 弘志			実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科	目・講義	
開講期	引 通年 前期: 2時間(回数:15回			女:15回)	後期: 3時間(回数:15回)				授業時数	75 時間	
教材 教具	- 「おえト 改計」以前(普気事院) 第一種背気 「事十事記試験の徹氏マスター 改計り版(オーム)										
担当者 の実務 経験		正)、第一種電気工事士事記試験模範回答集 2025 版 (電気書院) 三井 和一郎:家電修理専門会社にて家電修理、ビルメンテナンス会社にて電気設備の保守・管理、および電気主任技術者 ※井 弘志 :電設会社において電気工事、ビルメンテナンス会社にて電気設備の保守・管理									

【学修内容】科目のねらい(目的)

電気工事士として必要な、電気関係法令および電気施設の保安に関する法令について理解することを 目的とする。

	【授業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス(後 期)		
1	電気工事士の)資格	1	電気工作物とは		
2	電気工事士の)義務	2	電気工事の範囲		
3	電気事業法		3	一般用電気工作物とその規制		
4	電圧の種別		4	自家用電気工作物とその規制		
5	屋内電路の対	付地電圧	5	電気工事業法		
6	まとめ		6	電気工事業者の義務		
7	前期中間試験	寅	7	後期中間試験		
8	電気法規の必	必要性	8	電気設備基準とその解釈		
9	電気保安関係	系法令の体系	9	まとめ		
10	電気保安関係	系法令の相互関係	10	電気用品安全法		
11	電気工作物の)範囲と種類	11	電気用品の規制内容		
12	電気事業用電	電気工作物とその規制	12	電気工事士等の作業の範囲		
13	電気工事士法	去	13	電気工事士等の義務と罰則		
14	まとめ		14	電気工事士免状の交付		
15	前期期末試験	ө	15	学年末試験		
	授業方法 業の進め方)	電気関係法規・電気設備技術をながら行う。	表準 と	こその解釈及び電験3種受験テキストを取り入れ		
	到達目標	電気工事士として必要な電気! ていること。	関係治	法令及び電気施設の保安に関する法令が理解でき		
	対績評価の 方法と基準	・年間4回の中間・期末(学年ラ・随時行う小テスト:20% ・授業態度、課題などへの取り約 以上3項目を合計し、評価点をご	且み等			
授業時間以外に ・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。						
	多に当たって の留意点	的な姿勢があるかどうかなどのゴ	区素の	民り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極 の行動を評価するものである。 後成認定校としての基準を満たす必要がある。		

科目名	情報処理概論			英文名	Introduc			学科科目	1-6	
					to Infor	mation	Process	ing	番号	
担当者	三井 和	一郎		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科	目・講義
開講期	後期	前期:	時間(回数	: 回)	後期: 1	時間(〔回数:1	5 回)	授業時数	15 時間
教材 教具	電気通信	言工学科作	作成テキスト、	第一級陸」	上無線技術	士試験	無線工学	学Β 改計	丁3版(オ	ーム社)
担当者 の実務 経験	家電修理気主任技		土にて家電修理	!、ビルメ:	ンテナンス	会社に	て電気影	対備の保	守・管理、	および電

【学修内容】科目のねらい(目的)

コンピュータを効果的に利用するため、コンピュータの基本的な仕組みを学習し、ハードウェアやソ フトウェアについての基礎を理解することを目的とする。

/ 1 / 4 / 10 /	ノーソエアについての金硬を圧阱することを目的とする。									
【授業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス (後期)							
1		1	コンピュータの概要							
2		2	2 進数・10 進数							
3		3	2 進数・4 進数・8 進数・16 進数							
4		4	文字コード							
5		5	情報・情報量・アナログとデジタル							
6		6	論理回路の基礎							
7		7	後期中間試験							
8		8								
9		9	コンピュータの仕組み							
10		10	仮想コンピュータ							
11		11	中央処理装置・記憶装置							
12		12	入出力装置							
13		13	オペレーティングシステム							
14		14	アプリケーションソフト							
15	14 ブラック フェック 15									
授業方法 (授業の進め方)	授業は、教科書をもとに講義所の過去問題等を取り入れ長ら知記		で行うが、演習問題や第一級陸上無線技術士試験 定着を行う。							
到達目標	・コンピュータの基本的な仕組み・第一級陸上無線技術士試験 無		里解して、論理演算や基数変換ができること。 学 B が理解できていること。							
成績評価の 方法と基準	・中間・学年末試験:50% ・随時行う小テスト:20% ・授業態度、課題などへの取り約 以上3項目を合計し、評価点を1		等:30% 点法で算出し、60 点以上を認定とする。							
授業時間以外に 必要な学修										
履修に当たって の留意点	授業態度点は、授業中の私語や 的な姿勢があるかどうかなどの国		民り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極 D行動を評価するものである。							

								' '-	Tut letter to	/• - / ·
科目名	データ近	通信	英文名	Data Tra	ansmis	学科科目 番号	1-7			
担当者	三井 和	一郎、藤井	実務経験 の有無	有	新選択 必修 必修		科目区分	専門科	目・講義	
開講期	後期	前期: 時	計間(回数	:: 回)	後期: 1	時間	(回数:]	15回)	授業時数	15 時間
教材 教具	電気通信	言工学科作成	テキスト、	第一級陸」	上無線技術	士試験	無線工	学 A 改言	打3版(オ	ーム社)
担当者 の実務 経験		一郎 : 家電修 理、ネ 志 : 電設会	よび電気	主任技術者						

【学修内容】科目のねらい(目的)

デジタル通信の基本原理を知り、データ通信がコンピュータネットワークシステムにおいてどのよう に活用されているか。また、コンピュータ技術とネットワーク技術が結びつくことにより、地理的制限 のない利用が可能ということを理解するのを目的とする。

	【授業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス (後期)					
1			1	DSL 技術の概要					
2			2	PPPoE による通信システム					
3			3	IP 電話システム					
4			4	OSI 参照システム					
5			5	LAN 間接続装置					
6			6	イーサネット、無線、電磁波妨害、雷害対策					
7			7	後期中間試験					
8			8	データ伝送技術					
9			9	同期方式					
10			10	誤り制御方式					
11			11	IP ネットワーク					
12			12	情報セキュリティの脅威					
13			13	暗号化技術					
14			14	安全管理					
15			15	学年末試験					
	授業方法 業の進め方)	授業は、教科書をもとに講義所取り入れながら知識の定着を行う							
	到達目標	・コンピュータネットワークの(理解できていること。 ・第一級陸上無線技術士試験 無		I 階層における伝送路の基本的な仕組みと原理が 学 A が理解できていること。					
	戈績評価の 方法と基準	・中間・学年末試験:50% ・随時行う小テスト:20% ・授業態度、課題などへの取り約 以上3項目を合計し、評価点をご		等:30% 点法で算出し、60 点以上を認定とする。					
	業時間以外に 必要な学修	・自宅学習による授業ごとの予習 ・課題、レポートは期日までに作							
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	多に当たって の留意点	授業態度点は、授業中の私語な的な姿勢があるかどうかなどのエ		民り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極 D行動を評価するものである。					

								, ,-		7 -		
科目名	電子回路	各	英文名	Electro	nic Ci		学科科目 番号	1-8				
担当者	三井 和一郎、藤井 弘志			実務経験 の有無	有	有 以修		科目区分	専門科	目・講義		
開講期	後期	前期:	時間(回数: 回)	後期:	2 時間	2 時間(回数:15		授業時数	30 時間		
教材 教具	電気通信振興会)		成テキスト	、、一陸技無	線従事者国	国家試験	問題解答	集(一	般財団法人	、情報通信		
担当者 の実務 経験		振興会) 三井 和一郎:家電修理専門会社にて家電修理、ビルメンテナンス会社にて電気設備の保守・管理、および電気主任技術者 藤井 弘志 :電設会社において電気工事、ビルメンテナンス会社にて電気設備の保守・管理										

【学修内容】科目のねらい(目的)

電子回路の基礎となる半導体を応用した回路を中心に学習し、第一級陸上無線技術士の資格取得を目 的とする。

* 1, -> 11, -> 1>									
【授業計画】	コマシラバス(前 期)		コマシラバス (後期)						
1		1	半導体の原理、正孔、自由電子						
2		2	半導体と整流作用						
3		3	トランジスタの原理とトランジスタ回路						
4		4	直流増幅率、交流増幅率						
5		5	バイアス回路、種類と特徴						
6		6 電界効果トランジスタの原理、増幅回廊							
7		7	後期中間試験						
8		8	微分回路と積分回路						
9		9	OP アンプ、原理と計算						
10		10	第一級陸上無線技術士の問題と解説						
11		11	第一級陸上無線技術士の問題と解説						
12		12	第一級陸上無線技術士の問題と解説						
13		13	第一級陸上無線技術士の問題と解説						
14		14	第一級陸上無線技術士の問題と解説						
15		15	学年末試験						
授業方法 (授業の進め方)	電子回路を基に、演習問題や第 知識の定着を行う。	第一級陸上無線技術士の過去問題等を取り入れながら							
到達目標	, ,,,, ,,, = , ,,,, =	子の動きから説明することができること。 する問題を解くことができること。							
成績評価の 方法と基準	・中間・学年末試験:50% ・随時行う小テスト:20% ・授業態度、課題などへの取り約 以上3項目を合計し、評価点を		等:30% 点法で算出し、60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に 必要な学修									
履修に当たって の留意点									
	l								

							70(1)/()/(1 1	71.1 H11.2 TO	<i>)</i> , c / c		
科目名	無線工学			英文名	Radio E	nginee	ering	学科科目 番号	1-9			
担当者	三井 和一郎、藤井 弘志			実務経験 の有無	有			科目区分	専門科	目・講義		
開講期	後期	前期:	時間(回数	:: 回)	後期: 2	時間	(回数:1	5 回)	授業時数	30 時間		
教材 教具	電気通信工学科作成テキスト、第一級陸上無線技術士試験 やさしく学ぶ 法規 改訂 3 版(オーム社)											
担当者 の実務 経験		三井 和一郎:家電修理専門会社にて家電修理、ビルメンテナンス会社にて電気設備の保守・管理、および電気主任技術者 藤井 弘志 :電設会社において電気工事、ビルメンテナンス会社にて電気設備の保守・管理										

【学修内容】科目のねらい(目的)

携帯電話など移動通信システムの基本的な無線技術と、衛星放送や宇宙通信システムなどの超遠距離 通信についての基礎技術を学習し、これらのシステム実現のための統合技術や周辺技術などを理解する ことを目的とする。

【授業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス(後 期)						
1		1	多重通信方式の概要						
2		2	変調						
3		3	送受信装置						
4		4	中継方式						
5		5	レーダ						
6		6	アンテナ						
7		7	後期中間試験						
8		8	電波伝搬						
9		9	電源、測定						
10		10	第一級陸技無線技術士の過去問題						
11		11	第一級陸技無線技術士の過去問題						
12		12	第一級陸技無線技術士の過去問題						
13		13	第一級陸技無線技術士の過去問題						
14		14	第一級陸技無線技術士の過去問題						
15		15	学年末試験						
授業方法 (授業の進め方)	授業は、教科書をもとに講義 過去問題等を取り入れながら知識		で行うが、演習問題や第一級陸上特殊無線技士の E着を行う。						
到達目標	・無線通信における基本的な技術 や問題点が理解できていること。 ・第一級陸上特殊無線技士の「コ		里解し、これらを使ったサービス・ビジネス事例 科目が理解できていること。						
成績評価の 方法と基準	・中間・学年末試験:50% ・随時行う小テスト:20% ・授業態度、課題などへの取り約以上3項目を合計し、評価点を		等:30% 京法で算出し、60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に 必要な学修	・自宅学習による授業ごとの予報 ・課題、レポートは期日までに付								
履修に当たって の留意点	授業態度点は、授業中の私語 ³ 的な姿勢があるかどうかなどの ⁵		民り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極 O行動を評価するものである。						
		2.0							

科目名	科目名 電気通信法規			英文名	Telecom	municat	学科科目	1-10				
71 11 71				人人们	Laws a	and Reg	ulations	;	番号	1 10		
担当者	三井 和一郎、藤井 弘志			実務経験	有	選択	必修	科目	古田科	目・講義		
1534				の有無	Ţ	必修	必修		41111	□ 冊我		
開講期	後期	前期:	時間(回数	:: 回)	後期:	1時間	(回数:	15回)	授業時数	15 時間		
教材	電気通信	言工学科作	成テキスト、	第一級陸」	上無線技術	 析士試験	やさし	く学ぶ	法規 改訂	3版(オー		
教具	ム社)											
担当者	三井 和一郎:家電修理専門会社にて家電修理、ビルメンテナンス会社にて電気設備の保守・管											
の実務		理、および電気主任技術者										
経験	藤井 弘	志 :電	設会社におい~	て電気工事	、ビルメ	ンテナン	ノス会社に	こて電気	試設備の保	子・管理		

【学修内容】科目のねらい(目的)

法に基づく秩序ある通信の運用を行うのに必要な知識を学ぶ。また、電気通信全般に関する常識的な 考え方を学ぶことを目的とする。

【授業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス(後 期)						
1		1	電気通信事業法及び施行規則						
2		2	電気通信設備、端末設備の接続						
3		3	工担者規則、認定等規則						
4		4	端末機器の技術基準適合認定						
5		5	端末設備等規則						
6		6 安全性等							
7		7 後期中間試験							
8		8	有線電気通信法規関連						
9		9	関連法規						
10		10	電波法の概要						
11		11	無線局						
12		12	無線設備						
13		13	無線従事者						
14		14	無線局の運用						
15		15	学年末試験						
授業方法 (授業の進め方)									
到達目標	・工事担任者の「法規」が理解で ・第一級陸上無線技術士の「法規	_	- "						
成績評価の 方法と基準	・中間・学年末試験:50% ・随時行う小テスト:20% ・授業態度、課題などへの取り約 以上3項目を合計し、評価点をご		等:30% 京法で算出し、60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に 必要な学修	复習を心掛ける。 レて提出する。								
履修に当たって の留意点	授業態度点は、授業中の私語な 的な姿勢があるかどうかなどの ^エ		民り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極 O行動を評価するものである。						
∨田忠小	HJ/4 女为 N- 07/3 N-C J N-/4 C V)-	一米り	/ I 350 で ET IM) の ひ ∨ / ⟨ α) る。						

科目名	施工方法	去	英文名	Construc	Construction methods			学科科目 番号	2-1			
担当者	生藤 佑	城	実務経験 の有無	有	選択 必修	12.41%		専門科目・講義				
開講期	期 通年 前期: 2 時間(回数:15 回)			後期: 2	時間	(回数:1	5 回)	授業時数	60 時間			
教材 教具		言工学科作成テキスト、2 、2級電気工事施工管理							問題集(電			
担当者 の実務 経験	電気工具	気書院)、2級電気工事施工管理技士 第一次検定テキスト 2025 年版(CIC 出版) 電気工事会社にて施工技術管理者として施工設計・品質管理・工程管理										

【学修内容】科目のねらい(目的)

建設工事現場における照明設備工事、変電設備工事、発電設備工事、送配電線工事、構内電気設備工 事、非常用電源設備工事、電車線工事、信号設備工事などの施工管理について理解することを目的とす

	【授業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス(後 期)							
1	設置場所とコ	[事の種別	1	短絡電流と遮断器容量 ①							
2	幹線と分岐回	可路	2	短絡電流と遮断器容量 ②							
3	屋内配線の隔	鬲離距離	3	高圧進相コンデンサ							
4	高圧屋内配線	泉	4	避雷器と電力ヒューズ							
5	管工事の施設	n. Z	5	保護継電器							
6	ダクト工事		6	6 機器の絶縁耐力							
7	前期中間試験	角	7	後期中間試験							
8	ケーブル工事	F、地中電線路	8	高圧機械器具の施設							
9	電熱装置の施	也設	9	全体のまとめ							
10	支線の張力		10	架空電線路の施設							
11	支線の必要乳	条数	11	地中電線路の施設							
12	V結線		12	高圧架空ケーブル							
13	高圧回路の過	生断装置	13	自家用電気工作物の新増設							
14	高圧回路の関	帮閉器	14	14 適正電圧の維持							
15	前期期末試験	寅	15	学年末試験							
	授業方法 業の進め方)			電気工事施工管理技術検定テキストを基に、プリ ながら行う。							
	到達目標			事、変電設備工事、発電設備工事、送配電線工事、 工事、電車線工事、信号設備工事などの施工管理							
	战績評価の 対法と基準	・年間4回の中間・期末(学年ラ・随時行う小テスト:20% ・授業態度、課題などへの取り約以上3項目を合計し、評価点をご	且み等								
	巻時間以外に 必要な学修	・自宅学習による授業ごとの予習 ・課題、レポートは期日までに作		-							
	多に当たって の留意点	的な姿勢があるかどうかなどのゴ	戸素 ∅	民り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極 の行動を評価するものである。 &成認定校としての基準を満たす必要がある。							

LTT	岡田科子技術等門子校					子件名(电风进后上子件)				
							※授業の	の 1 単位	立時間は 45	分とする
科目名	配線設計	<u></u>	英文名	Ele	ctric	al	testing		学科科目	2-2
71112		11	八八日	met	hods				番号	ני
担当者	生藤佑	生藤 佑城、川本 博之			有	選択必修	必修	科目区分	専門科	目・講義
開講期							授業時数	60 時間		
教材	電気通信	言工学科作成テキスト、	乙種 4 類別		勿取扱	:者試験	2025 版	(公論出	版)、消防	設備士 第
教具	4 類 令	和7年上巻/下巻(公論出	出版)、ドリ	ルで	学ぶ	Jw_cac	l 第4版	(日経	圣BP社)	
担当者	上 生藤 佑			理者	レレフ	/ 施丁詞	沙計•品值	哲答理•		
の実務	-	次・電スエッムににて 之:電設会社において								
経験	2.1.1.1.10	之:· 电欧五压(-1/6)	-1/(-1/							
【学修	内容】科目	目のねらい (目的)								
屋内	電気配線を	を理解し、建築物や電気	工作物に近	適した	配線	設計が	できるこ	とを目	的とする。	
ľ	授業計画	コマシラバス(前	期)			Ę	コマシラノ	ヾス(後	(期)	
1 屋	内配線の	ンンボル①		1	漏電遮断機の設置①					
o 🖻	中町炉のこ	10 A 10		0	沿走	, 中 际 广 特殊	の乳墨の	\		

	【授業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス(後 期)					
1	屋内配線のシ	/ンボル①	1	漏電遮断機の設置①					
2	屋内配線のシ	/ンボル②	2	漏電遮断機の設置②					
3	複線図の書き	き方①	3	幹線の太さと許容電流①					
4	複線図の書き	き方②	4	幹線の太さと許容電流②					
5	配線条数①		5	幹線の太さと遮断器容量の求め方①					
6	配線条数②		6	幹線の太さと遮断器容量の求め方②					
7	前期中間試験	剣	7	後期中間試験					
8	低圧引込線の)施設①	8	絶縁電線・コードの許容電流①					
9	低圧引込線の)施設②	9	全体のまとめ					
10	電路の接地コ	工事①	10	絶縁電線・コードの許容電流②					
11	電路の接地コ	工事②	11	過電流遮断器の特性①					
12	配線の太さと	:小勢力回路①	12	過電流遮断器の特性②					
13	配線の太さと	:小勢力回路②	13	分岐回路の種類①					
14	需要率・負荷	青率	14	分岐回路の種類②					
15	前期期末試験	Ŕ	15	学年末試験					
	授業方法 業の進め方)	2級電気工事施工管理技術検知 使って進める。過去問題等も多く		節解答集や、電気工事士筆記試験受験テキストを)入れながら行う。					
	到達目標	・屋内電気配線の設計ができるこ ・電気配線図が描けること。	こと。						
	战績評価の ラ法と基準	・年間4回の中間・期末(学年末・随時行う小テスト:20% ・授業態度、課題などへの取り約以上3項目を合計し、評価点を1	且み等						
	芝時間以外に 公要な学修	・自宅学習による授業ごとの予覧 ・課題、レポートは期日までに作							
	多に当たって の留意点	的な姿勢があるかどうかなどの	で居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極 平素の行動を評価するものである。 事士養成認定校としての基準を満たす必要がある。						

科目名	電磁気气	7	英文名	Electroma	agneti		学科科目 番号	2-3	
担当者	三井 和	一郎	実務経験 の有無	有 選択 必修			科目区分	専門科	目・講義
開講期	通年	前期: 2 時間(回数	: 15 回)	後期: 2	時間	(回数:1	5 回)	授業時数	60 時間
教材 教具	電気通信	言工学科作成テキスト、	第一級陸_	上無線技術	士試験	: 無線工学	学Β[改言	丁3版](オ	ーム社)
担当者 の実務 経験	家電修理気主任技	里専門会社にて家電修理 支術者	し、ビルメ、	ンテナンス	 会社に	て電気影	が備の保	守・管理、	および電

【学修内容】科目のねらい(目的)

電線やコイルに電流が流れると様々な磁気現象が現れる。磁気現象を皮切りに電場や磁場に関する 色々な法則や計算方法を理解することを目的とする。

接業計画	世々な法則や計算力法を理解することを目的とする。 							
2 電流の磁気作用 2 直列回路の性質 3 鉄の磁化現象 3 並列回路の計算 4 電磁力 4 交流の電力 5 演習問題 5 記号法を用いた回路の計算 6 まとめ 6 三相交流 7 簡期中間試験 7 医期中間試験 8 電磁誘導 8 V結線と三相平衡負荷 9 インダクタンス 9 まとめ 10 磁界の性質 10 ひずみ波交流の表現 11 コンデンサ 11 ひずみ波交流の作用 12 協度現象の基礎 12 過度現象の基礎 13 正弦波交流のベクトル表示 14 過度現象の解析例 15 簡期期末試験 15 学年末試験 授業方法 (授業の進め方) 電気理論の教科書、第一級陸上特殊無線技士試験一陸特 集中ゼミ 第3所でディストを選出を表します。 16 検験の進め方 ・磁気や電界に関する性質を理解し計算ができること。 ・電気回路や電気波形について理解し計算ができること。 ・電気回路や電気波形について理解し計算ができること。 ・年間4回の中間・期末(学年末)試験:50%	[【授業計画】	コマシラバス(前 期)		コマシラバス (後 期)			
3 鉄の磁化現象 3 並列回路の計算 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 磁	な石の性質と	と働き	1	交流回路とその性質			
4 電磁力	2 電	這流の磁気作	作用	2	直列回路の性質			
5 演習問題 5 記号法を用いた回路の計算 6 まとめ 6 三相交流 7 前期中間試験 7 優期中間試験 8 電磁誘導 8 V結線と三相平衡負荷 9 インダクタンス 9 まとめ 10 磁界の性質 10 ひずみ波交流の表現 11 コンデンサ 11 ひずみ波交流の作用 12 放電現象 12 過度現象の基礎 13 正弦波交流の性質 13 過度状態と定常状態 14 正弦波交流のベクトル表示 14 過度現象の解析例 15 阿期期末試験 15 摩年末試験 授業方法 (授業の進め方) 電気理論の教科書、第一級陸上特殊無線技士試験一陸特 集中ゼミ 第3点 でプリントや過去問題等を多く取り入れながら行う。 到達目標 ・磁気や電界に関する性質を理解し計算ができること。 ・電気回路や電気波形について理解し計算ができること。 ・年間4回の中間・期末(学年末)試験:50%	3 鉄	共の磁化現 象	象	3	並列回路の計算			
6 まとめ 6 三相交流 7	4 電	這磁力		4	交流の電力			
7	5 演	資問題		5	記号法を用いた回路の計算			
8 電磁誘導 8 V 結線と三相平衡負荷 9 まとめ 10 磁界の性質 10 ひずみ波交流の表現 11 コンデンサ 11 ひずみ波交流の作用 12 放電現象 12 過度現象の基礎 13 正弦波交流のベクトル表示 14 過度現象の解析例 15 前期期末試験 14 温度現象の解析例 15 管年末試験 学年末試験 14 電気理論の教科書、第一級陸上特殊無線技士試験一陸特 集中ゼミ 第3 版 でプリントや過去問題等を多く取り入れながら行う。 1 一	6 ま	ミとめ		6	三相交流			
9 インダクタンス 10 磁界の性質 10 ひずみ波交流の表現 11 コンデンサ 11 ひずみ波交流の作用 12 放電現象 13 正弦波交流の性質 13 過度状態と定常状態 14 正弦波交流のベクトル表示 14 過度現象の解析例 15 阿期期末試験 15 で年末試験 16 でプリントや過去問題等を多く取り入れながら行う。 17 可以上のできること。 18 電気回路や電気波形について理解し計算ができること。 18 年間4回の中間・期末(学年末)試験:50%	7 前	前期中間試驗	倹	7	後期中間試験			
10 磁界の性質 11 コンデンサ 12 放電現象 13 正弦波交流の性質 14 正弦波交流のベクトル表示 14 過度現象の解析例 15 前期期末試験 16 電気理論の教科書、第一級陸上特殊無線技士試験一陸特 集中ゼミ 第3点 (授業の進め方) でプリントや過去問題等を多く取り入れながら行う。 17 可強制を関する性質を理解し計算ができること。 18 ・電気回路や電気波形について理解し計算ができること。 19 ・年間4回の中間・期末(学年末)試験:50%	8 電	這磁誘導		8	V 結線と三相平衡負荷			
11 コンデンサ 放電現象 11 ひずみ波交流の作用 12 放電現象 12 過度現象の基礎 13 正弦波交流の性質 正弦波交流のベクトル表示 14 過度現象の解析例 15 前期期末試験 15 学年末試験 授業方法 (授業の進め方) 電気理論の教科書、第一級陸上特殊無線技士試験一陸特 集中ゼミ 第3点 でプリントや過去問題等を多く取り入れながら行う。 到達目標 ・磁気や電界に関する性質を理解し計算ができること。 ・電気回路や電気波形について理解し計算ができること。 ・年間4回の中間・期末(学年末)試験:50%	9 イ	゚ンダクタン	ノス	9	まとめ			
12 放電現象 12 過度現象の基礎 13 正弦波交流の性質 13 過度状態と定常状態 14 正弦波交流のベクトル表示 14 過度現象の解析例 15 前期期末試験 15 学年末試験 授業方法 (授業の進め方) 電気理論の教科書、第一級陸上特殊無線技士試験一陸特 集中ゼミ 第3点 てプリントや過去問題等を多く取り入れながら行う。 到達目標 ・磁気や電界に関する性質を理解し計算ができること。 ・電気回路や電気波形について理解し計算ができること。 ・年間4回の中間・期末(学年末)試験:50%	10 磁				ひずみ波交流の表現			
13 正弦波交流のベクトル表示 14 過度現象の解析例 15 前期期末試験 14 過度現象の解析例 25 管年末試験 25 第3 版 25 でデース	11 =	コンデンサ			ひずみ波交流の作用			
14 正弦波交流のベクトル表示 14 過度現象の解析例 15 前期期末試験 15 学年末試験 授業方法 (授業の進め方) 電気理論の教科書、第一級陸上特殊無線技士試験一陸特 集中ゼミ 第3点 てプリントや過去問題等を多く取り入れながら行う。 到達目標 ・磁気や電界に関する性質を理解し計算ができること。 ・電気回路や電気波形について理解し計算ができること。 ・年間4回の中間・期末(学年末)試験:50%	12 放	放電現象			過度現象の基礎			
15	13 正	E弦波交流の	0性質	13	過度状態と定常状態			
授業方法 (授業の進め方) 電気理論の教科書、第一級陸上特殊無線技士試験一陸特 集中ゼミ 第3点 てプリントや過去問題等を多く取り入れながら行う。 ・磁気や電界に関する性質を理解し計算ができること。 ・電気回路や電気波形について理解し計算ができること。 ・年間4回の中間・期末(学年末)試験:50%	14 正	E弦波交流の	のベクトル表示	14	過度現象の解析例			
 (授業の進め方) てプリントや過去問題等を多く取り入れながら行う。 到達目標 ・磁気や電界に関する性質を理解し計算ができること。 ・電気回路や電気波形について理解し計算ができること。 ・年間4回の中間・期末(学年末)試験:50% 	15 前	前期期末試験	ଚ	15	学年末試験			
・電気回路や電気波形について理解し計算ができること。 ・年間4回の中間・期末(学年末)試験:50%		. ,						
	到這	達目標						
方法と基準 ・授業態度、課題などへの取り組み等:30% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。	, ,	*** *** ***	・随時行う小テスト:20% ・授業態度、課題などへの取り約	且み等	等:30%			
授業時間以外に ・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。								
履修に当たって の留意点 授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組 的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。 また、出席数は、第二種電気工事士養成認定校としての基準を満たす必要があ								

科目名	ネットワーク工学		英文名	Network 1	Engine	eerrig		学科科目 番号	2-4	
担当者	三井 和	一郎		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目区分	専門科	目・講義
開講期	通年	前期:2	時間(回数	: 15 回)	後期:2	時間	(回数:1	5 回)	授業時数	60 時間
教材 教具										
担当者 の実務 経験	家電修理気主任技		にて家電修理	!、ビルメ:	ンテナンス	会社に	て電気認	対備の保	守・管理、	および電

【学修内容】科目のねらい(目的)

現在のネットワーク技術において、主流となっている TCP/IP の知識を学ぶことを目的とする。

	【授業計画】	コマシラバス (前 期)	コマシラバス(後 期)				
1	ネットワーク	つの進展概要	1	IP ルーチング			
2	2 電話ネットワーク			IPv6			
3	データ通信電	電話ネットワーク	3	広域ネットワーク			
4	インターネッ	ソト	4	トランスポート層 (TCP)			
5	アナログ信号	号のデジタル化	5	トランスポート層 (UDP)			
6	ベースバント	ぶ伝送	6	アプリケーション層(DNS)			
7	前期中間試験	ө	7	後期中間試験			
8	ブロードバン	/ ド伝送	8	アプリケーション層(DHCP)			
9	同期と非同期	· ·	9	アプリケーション層(SIP)			
10	ネットワーク	フトポロジー	10	広域イーサネット			
11	プロトコルと	: 階層化	11	IP-VPN			
12 ローカルエリアネットワーク			12	暗号化方式			
13	13 スイッチングハブ			IPsec			
14	IP ネットワー	ーク	14	TSL/SSL			
15	前期期末試験		15	学年末試験			
	授業方法 業の進め方)	教科書をもとに講義形式で行う 知識の定着を狙う。	う。名	各種資格試験から問題を抽出しそれを解くことで			
	到達目標	・コンピュータネットワークの根・通信プロトコルの概要を理解し		と理解できていること。 情報セキュリティの重要性について理解する。			
	成績評価の 方法と基準	・年間4回の中間・期末(学年ラ・授業態度、課題の取り組み等以上2項目を合計し、評価点をご	: 50%				
	業時間以外に 必要な学修	・自宅学習による授業ごとの予習 ・課題、レポートは期日までに作					
履個	多に当たって の留意点	授業態度点は、授業中の私語の 的な姿勢があるかどうかなどの ^エ		民り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極 O行動を評価するものである。			

						※ 授業の	ひ 1 単位	広時間は 45	分とする
科目名	資格指導	資格指導		Qualific	Qualification		e	学科科目 番号	1-11
担当者	三井 和	一郎	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科	目・講義
開講期	前期	前期: 6時間(回数	::15 回)	後期:	時間	(回数:	回)	授業時数	90 時間
教材 教具	電気通信工学科作成テキスト、第一種電気工事士筆記試験模範解答集 2025 年版(電気書院)、いちばんわかりやすい!電験三種 合格テキスト(成美堂出版)、2025 年版 第一種電気工事士技能試験公開問題の合格解答(オーム社)、2025 年版 第二種電気工事士技能試験公開問題の合格解答(オーム社)								
担当者 の実務 経験									
第二種	【学修内容】科目のねらい(目的) 第二種電気工事士、第一種電気工事士、第一級陸上特殊無線技士の資格取得の為の対策講座を行うことを目的とする。								
V 1-	~ MA = 1 T	(11)	I her \				S . ///	I Lee S	

_ ~	C & BH)C 9 (J)						
	【授業計画】	コマシラバス (前 期)	コマシラバス (後 期)				
1	第二種電気コ	工事士筆記試験問題	1				
2	第二種電気コ	[[工事士筆記試験問題]	2				
3	第二種電気コ	[[工事士筆記試験問題]	3				
4	第二種電気コ	[[事士筆記試験問題	4				
5	第一種電気コ	[[事士筆記試験問題	5				
6	第一種電気コ	[[事士筆記試験問題]	6				
7	前期中間試験	<u> </u>	7				
8	第一種電気コ	[[事士筆記試験問題]	8				
9	第一種電気コ	[[工事士筆記試験問題]	9				
10	一級陸上特殊	朱無線技士試験問題	10				
11	一級陸上特殊	朱無線技士試験問題	11				
12	一級陸上特殊	朱無線技士試験問題	12				
13	一級陸上特殊	朱無線技士試験問題	13				
14	一級陸上特殊	朱無線技士試験問題	14				
15	前期期末試験		15				
	授業方法 業の進め方)	各テキストの他、配布プリン	トや過去問題等も多く取り入れながら行う。				
	到達目標 各資格取得に必要な各項目を理解し、国家試験に合格できること。						

授業方法 (授業の進め方)	各テキストの他、配布プリントや過去問題等も多く取り入れながら行う。
到達目標	各資格取得に必要な各項目を理解し、国家試験に合格できること。
成績評価の 方法と基準	・中間・期末試験:50% ・随時行う小テスト等:20% ・授業態度、課題などへの取り組み等:30% 以上3項目を総合し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。
授業時間以外に 必要な学修	・自宅において配布プリントや過去問題等を解くよう心掛ける。
履修に当たって の留意点	授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極 的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。

科目名	電気工事実習 IA 英		英文名	Electric I A	al Co	nstructi	on	学科科目 番号	1-12
担当者	藤井 弘志、田中 徹 川本 博之		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目	・実習
開講期	通年	前期: 4時間(回数	:15 回)	後期: 4	時間	(回数:1	5 回)	授業時数	120 時間
教材 教具									
担当者 の実務 経験	藤井 弘志:電設会社において電気工事、ビルメンテナンス会社にて電気設備の保守・管理 田中 徹:総合設備会社にて電気工事及び電気工事の施工管理 川本 博之:電設会社において電気工事								

【学修内容】科目のねらい(目的)

主として金属管工事に関する実習を通じ、電気工事に対する興味・関心を深めるとともに、作業中の安 全の重要性を認識し、電気工事士として必要な知識や技術を総合的に体得することを目的とする。

				土の重文はと肺臓し、电水エチェとして近文なが臓(及内と心口は10円内を切ってとしばしてある。							
	【授業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス (後 期)							
1	より線の接続	荒①	1	金属管工事①							
2	より線の接続	荒②	2	金属管工事②							
3	トーチランプ	プの使用法	3	金属管工事③							
4	はんだ付け(1)			金属管工事④							
5	はんだ付け	(2)	5	金属管工事⑤							
6	金属管の切り	f	6	金属管工事⑥							
7	金属管のねし	じ切り	7	金属管工事⑦							
8	金属管の曲に	ず方 アイス	8	金属管工事⑧							
9	金属管の接続	芫	9	金属管工事⑨							
10	薄鋼電線管とボックスの接続			金属管工事⑩							
11	アースボンドの取り方①			総合工事実習①							
12	ねじなし電線管とボックスの接続			総合工事実習②							
13	アースボンドの取り方②			総合工事実習③							
14	14 金属管の固定			総合工事実習④							
15	金属製可とう	う電線管の切断、管相互の接続タ - 回路	15	総合工事実習⑤							
	授業方法 業の進め方)	電気工事実技教科書を使って基	基本的	りな接続方法から実際の配線工事までを行う。							
	到達目標	・各項目の作業が指示通りできる ・電気設備技術基準を遵守した面		-							
	・実習ごとの作業内容の完成度:70% ・授業態度(関心・意欲・思考・判断・技術表現・安全等):30% 以上2項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。										
	業時間以外に ・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 必要な学修 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。										
	援修に当たって の留意点 の留意点 を実態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極 的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。 また、出席数は、第二種電気工事士養成認定校としての基準を満たす必要がある。										

							70(1)()	1 1	7 to 10119 TO	<i>)</i>
科目名	電気工	事実習	I В	英文名	Electric: IB	al Co	nstructi	on	学科科目 番号	1-13
担当者	藤井 弘志、秋山 俊朗 川本 博之		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科	目・実習	
開講期	通年	前期:	4 時間(回数	:15 回)	後期: 4	時間	(回数:1	5 回)	授業時数	120 時間
教材教具										
担当者 の実務 経験	秋山 俊	朗:電影	会社において 会社において 会社において 会社において	電気工事	ビルメンラ	テナン	ス会社に	て電気影	受備の保守	• 管理

【学修内容】科目のねらい(目的)

主としてケーブル工事に関する実習を通じ、電気工事に対する興味・関心を深めるとともに、作業中の 安全の重要性を認識し、電気工事士として必要な知識や技術を総合的に体得することを目的とする。

	【極米到重】	コージラバフ (並 押)	コーショバフ(24 期)				
1	【授業計画】 電線の終端技	コマシラバス(前期)	1	コマシラバス(後期) ケーブル工事①			
1	電線の終端指		$\begin{array}{c c} 1 \\ 2 \end{array}$	ケーブル工事①			
2	_ , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		3	ケーブル工事②			
_	3 電線の終端接続③ 4 ケーブルの接続①			ケーブル工事③			
4	-		4				
5	ケーブルの技		5	ケーブル工事⑤			
6	ケーブルの指		6	ケーブル工事⑥			
7	ケーブルの固	=	7	ケーブル工事⑦			
8	3路スイッラ		8	ケーブル工事⑧			
9	4路スイッラ		9	ケーブル工事⑨			
10	パイロットラ		10	ケーブル工事⑩			
11	ホタルスイッ		11 12	総合工事実習①			
12				総合工事実習②			
13	端子台への指		13	総合工事実習③			
14	メタルラス国	_ ,	14	総合工事実習④			
15	太い電線の耳	又扱い	15	総合工事実習⑤			
	授業方法 業の進め方)	電気工事実技教科書を使って基	基本的	りな接続方法から実際の配線工事までを行う。			
	到達目標	・各項目の作業が指示通りできる ・電気設備技術基準を遵守した西		-			
	成績評価の 方法と基準	・実習ごとの作業内容の完成度 ・授業態度(関心・意欲・思考 以上2項目を合計し、評価点を	• 判践				
	受業時間以外に ・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 必要な学修 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。						
	履修に当たって の留意点 授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極 的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。 また、出席数は、第二種電気工事士養成認定校としての基準を満たす必要がある。						

科目名	電気工具	事実習 IC	英文名	Electrica IC	al Co	nstructi	on	学科科目 番号	1-14
担当者	生藤 佑	城、田中 徹	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科	目・実習
開講期	通年	前期: 4時間(回数	::15 回)	後期: 4	時間	(回数:1	5 回)	授業時数	120 時間
教材教具									
担当者 の実務 経験									

【学修内容】科目のねらい(目的)

主として合成樹脂管工事に関する実習を通じ、電気工事に対する興味・関心を深めるとともに、作業中 の安全の重要性を認識し、電気工事士として必要な知識や技術を総合的に体得することを目的とする。

	【授業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス(後 期)			
1	工具の取扱い)	1	合成樹脂管工事①			
2				合成樹脂管工事②			
3	3 電線被覆のはぎ取り①			合成樹脂管工事③			
4	電線と端子の	り接続(輪巻き)	4	合成樹脂管工事④			
5	器具の取り作	けけ①	5	合成樹脂管工事⑤			
6	器具の取り作	けけ②	6	合成樹脂管工事⑥			
7	絶縁テープの渇	巻き方	7	合成樹脂管工事⑦			
8	各種端子の技	接続	8	合成樹脂管工事⑧			
9	合成樹脂管0		9	合成樹脂管工事⑨			
10	合成樹脂管0	の曲げ方①	10	合成樹脂管工事⑩			
11	合成樹脂管0	り曲げ方②	11	総合工事実習①			
12	合成樹脂管0	D接続	12	総合工事実習②			
13	プルボックス	スの加工	13	総合工事実習③			
		こボックスとの接続	14	1-0			
15	呼び線による	5 通線	15	総合工事実習⑤			
	授業方法 (授業の進め方) 電気工事実技教科書を使って基本的な接続方法から実際の配線工事までを行う。						
	到達目標	・各項目の作業が指示通りできる ・電気設備技術基準を遵守した暦		-			
	戈績評価の 方法と基準	・実習ごとの作業内容の完成度 ・授業態度(関心・意欲・思考・ 以上2項目を合計し、評価点をご	• 判践				
	受業時間以外に ・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 必要な学修 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。						
	履修に当たって の留意点 の留意点 接業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極 的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。 また、出席数は、第二種電気工事士養成認定校としての基準を満たす必要がある。						

						※授業の	01 単位	Z時間は 45	分とする	
科目名	電気工事	事実習 ID	英文名	Electric	al Co	nstructi	on	学科科目 番号	1-15	
				I D	I I I			留 万		
担当者	生藤 佑	城、川本 博之	実務経験	有	選択	必修	科目	古明科	目・実習	
1574	藤井 弘	志	Ţ	必修	光刊多	区分	411/1			
開講期	通年 前期:4時間(回数:15回) 後期:4時間(回数:15回) 授業時数 120時間									
刑 冊 炒]	世中 前朔、4时间(回剱、 15 回 / 後朔、 4时间(回剱・15 回 / 技术时刻 120 时间									
*/- +-+	2025 年	2025 年版 第一種電気工事士技能試験公開問題の合格解答(オーム社)、2025 年版 第二種電気								
教材	工事士技	支能試験公開問題の合格	解答(オー	-ム社)、電	意 気工事	事実技教科	斗書 改	訂4版(原	星用問題研	
教具	究会)									
担当者	生藤 佑	城:電気工事会社にて加	布丁技術管	理者として	で施丁言	少計 • 品質	雪管理•	丁程管		
の実務		之:電設会社において		<u> </u>	· //	A P 1 P P 3	~ - ~	F		
経験	藤井 弘志:電設会社において電気工事、ビルメンテナンス会社にて電気設備の保守・管理									
	生歌 膝井 弘心・电政去性にわいて电太上事、ロルクンナナンへ去性にて电太政師の体寸・官理									
【学修内容】科目のねらい(目的)										
2.1.1		71.3 - +7.30		≠ # + ਹਹਾ. > > >	, s		L. L. 1 1	D++1. DD \ .	1. Mart 1. 1 - 1	

主としてがいし引き工事及びPF管工事に関する実習を通じ、電気工事に対する興味・関心を深めると ともに、作業中の安全の重要性を認識し、電気工事士として必要な知識や技術を総合的に体得すること

ど目	を目的とする。								
【挖	受業計画】	コマシラバス(前 期)		コマシラバス(後 期)					
1	リングスリー	ーブによる接続	1	がいし引き工事①					
2	差し込み形に	コネクタによる接続	2	がいし引き工事②					
3	S形スリース	ブによる接続	3	がいし引き工事③					
4	B形スリーフ	ブによる接続	4	がいし引き工事④					
5	配線器具の耳	取り付け①	5	がいし引き工事⑤					
6	6 配線器具の取り付け③			PF管工事①					
7	配線器具の耳	対り付け⑤	7	PF管工事②					
8	バインド方法	去	8	PF管工事③					
9	がいし引き酉	记線①	9	PF管工事④					
10	がいし引き酉	7線2	10	PF管工事⑤					
11	PF管の切牌	折	11	総合工事実習①					
12	PF管の接続	売	12	総合工事実習②					
13	PF管とボッ	ックスとの接続	13	総合工事実習③					
14	PF管の固定	Ė	14	14 総合工事実習④					
15	合成樹脂線で	パ工事	15	総合工事実習⑤					
	授業方法 業の進め方)	電気工事実技教科書を使って基	表本的	りな接続方法から実際の配線工事までを行う。					
	到達目標	・各項目の作業が指示通りできる ・電気設備技術基準を遵守した西		-					
	対績評価の 方法と基準	・実習ごとの作業内容の完成度 ・授業態度(関心・意欲・思考 以上2項目を合計し、評価点を	判						
,	美時間以外に 必要な学修	・自宅学習による授業ごとの予習 ・課題、レポートは期日までに作							
	多に当たって の留意点	的な姿勢があるかどうかなどのゴ	戸素 ∅	民り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極 〇行動を評価するものである。 養成認定校としての基準を満たす必要がある。					

						74(1)(7)	1 1-	7.41H119 10	/ V = / v	
科目名	電気工事実習 II A 英文名			Electrica IIA	al Co	学科科目 番号	2-5			
担当者		城、田中 徹	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科	目・実習	
開講期	通年	後期:4	時間(〔回数:15	回)	授業時数	120 時間			
教材 教具	電気通信	言工学科作成テキスト、	電気工事第		改訂	4版(雇	用問題研	研究会)、企	è 業持参品	
担当者 の実務 経験	田中 和関藤	田中 徹 :総合設備会社にて電気工事及び電気工事の施工管理								

【学修内容】科目のねらい(目的)

一年次に学習した配線・配管工事の基本をふまえ、実際の現場に即した専門性と応用力を身につける とともに、電気設備基準を十分に理解した安全な工事ができることを目的とする。

また、株式会社徳山電機製作所より特別講師を招き、講師の指導により職業実践専門課程として、実 践的な実習を行い、技術の習得を目的とする。

【授業	業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス(後 期)						
1 金	金属製可とう電線管	管の切断、管相互の接続①	1	職業実践実習 2						
2 職	数業実践実習 1		2	引込口工事①						
3 金	と属製可とう電線管	管の切断、管相互の接続②	3	引込口工事②						
4 合	合成樹脂管の切断、	接続①	4	照度の測定①						
5 合	合成樹脂管の切断、	接続②	5	照度の測定②						
6 合	合成樹脂線ぴ工事(1		6	絶縁抵抗測定①						
7 合	合成樹脂線ぴ工事②		7	絶縁抵抗測定②						
	リモコン配線①		8	接地抵抗の測定①						
9 J	リモコン配線②		9	接地抵抗の測定②						
_	電動機工事①		10	卒業制作I						
	電動機工事②			卒業制作Ⅱ						
12 電	電動機工事③			卒業制作Ⅲ						
13 Y	7-Δ始動器回路①			3 卒業制作IV						
	Y-∆始動器回路②		14	職業実践実習 3						
15 Y	ζ-Δ始動器回路③		15	卒業制作V						
	業方法			重配線工事や測定方法を実際に行う。						
(授業	きの進め方)	・企業から特別講師を招き、分電	電盤や制御盤について知識や技術を習得する。							
		・各項目の作業が指示通りできる	5 Z 2	- 0						
到]達目標	・電気設備基準を遵守した配線、	配管	ぎ工事が確実にできること。						
		分電盤や制御盤の知識や技能が	うりに	こついていること。						
<u>-1</u> -> ∕≈	漬評価の	・実習ごとの作業内容の完成度:	70%	6						
	リロック はいまま はいまま はいまま はいまま はいま はいま はい	・授業態度(関心・意欲・思考・	判践	昕・技術表現・安全等): 30%						
JJ 12	ムこ坐中	以上2項目を合計し、評価点を1	.00片	京法で算出し、60点以上を認定とする。						
授業時	時間以外に	・自宅学習による授業ごとの予習	引・復	复習を心掛ける。						
必要	要な学修	・課題、レポートは期日までに作	ド成し	して提出する。						
		授業態度点は、授業中の私語の	き居り	民り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極						
	に当たって	的な姿勢があるかどうかなどの引	△素の	つ行動を評価するものである。						
()	留意点	また、出席数は、第二種電気工事	手士養	養成認定校としての基準を満たす必要がある。						

						70.13/0/10	1 1-	7.41 H1102 TO	/• - / ·
科目名	電気工事	事実習 ⅡB	Electrica IIB	al Co	on	学科科目 番号	2-6		
担当者	生藤 佑	城、秋山 俊朗	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目	目・実習
開講期	通年	前期:4時間(回数:	15 回)	後期:4 時間(回数:15 回) 授業時数 120 時					
教材 教具	電気通信	言工学科作成テキスト、	電気工事家	実技教科書	改訂	4版(雇	用問題	研究会)	
担当者 の実務 経験		城:電気工事会社にてた 朗:電設会社において「		理者として	 C施工記	安計・品質	 質管理・	工程管理	

【学修内容】科目のねらい(目的)

一年次に学習した配線・配管工事の基本をふまえ、実際の現場に即した専門性と応用力を身につける とともに、電気設備基準を十分に理解した安全な工事ができることを目的とする。

	【授業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス (後 期)						
1	三相誘導電動	動機の直入れ運転回路①	1	テレビ・BSアンテナの取り付けと調整①						
2	三相誘導電動	動機の直入れ運転回路②	2	テレビ・BSアンテナの取り付けと調整②						
3	三相誘導電動	動機の正転逆転回路①	3	ガス溶接・アーク溶接の実習						
4	三相誘導電動	動機の正転逆転回路②	4	変圧器の極性試験と模擬絶縁耐力試験①						
5	回路計の使用	用法と分電盤電圧の測定法	5	変圧器の極性試験と模擬絶縁耐力試験②						
6	自動火災報知	田機の検知実習	6	配筋とCD・PF管によるスラブ配管①						
7	地絡遮断器と	上漏電火災警報器	7	配筋とCD・PF管によるスラブ配管②						
8	蛍光灯の交換	與・修理・保全	8	配筋とCD・PF管によるスラブ配管③						
9		^{器のしくみと取扱いを学ぶ}	9	配線工事材料積算・工事費見積をしてみよう①						
10	器の取扱い①	ダ、油圧圧着工具、レーザー水準	10	配線工事材料積算・工事費見積をしてみよう②						
11	油圧式ベンク器の取扱い2	ダ、油圧圧着工具、レーザー水準)	11	配線工事材料積算・工事費見積をしてみよう③						
12	電力量計の機	票準結線の学習	高圧受電設備の機器の配置について学習する							
13	3 継電器総合動作試験 13 複雑な配線工事にトライしてみよう									
14	高速切断機 付作業を学	・振動ドリル・はつり・アンカ取	14	複雑な配線工事にトライしてみよう②						
15		用した動力回路の製作	15 複雑な配線工事にトライしてみよう③							
	授業方法 業の進め方)	電気工事の基礎から応用まで、	各種	重配線工事や測定方法を実際に行う。						
	到達目標	・各項目の作業が指示通りできる ・電気設備基準を遵守した配線、		-						
	戈績評価の 方法と基準	・実習ごとの作業内容の完成度: ・授業態度(関心・意欲・思考・ 以上2項目を合計し、評価点を1	判践							
,	業時間以外に ・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 必要な学修 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。									
	修に当たって の留意点 授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極 的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。 また、出席数は、第二種電気工事士養成認定校としての基準を満たす必要がある。									

						ふ汉未り	フェ キ 国	74年1月17年49	71 6 7 3	
科目名	電気電	子実習	英文名	Electrica Practica		ronic	学科科目 番号	2-7		
担当者	生藤 佑	城、國府 拓治	実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科	目・実習	
開講期	通年	前期:4 時間(回数	: 15 回)	後期:4	時間	(回数:1	5 回)	授業時数	120 時間	
教材 教具	電気通信	言工学科作成テキスト								
担当者 の実務 経験		生藤 佑城:電気工事会社において施工技術管理者として施工設計・品質管理・工程管理 國府 拓治:電子部品メーカーにて製品の開発・設計・CAD 等利用								

【学修内容】科目のねらい(目的)

各種の機械や計器、測定器などを使用し、工業に関する基礎的な技術を実際の作業を通して総合的に 学習し、技術への興味関心を高め、意欲的な態度を身につけることを目的とする。

	【授業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス (後 期)						
1	導入、説明		1	CRフィルター回路の特性測定						
2	電流計、電圧	E 計	2	RLCフィルター回路の特性測定						
3	電位降下法院	こよる抵抗の測定	3	バンドパス、ノッチフィルター回路の特性測定						
4	ホイートス	トンブリッジ	4	変圧器の特性測定						
5	万能ブリッシ	Ž	5	直流電源装置の出力抵抗測定						
6	単相電力の測	則定	6 分圧と平衡							
7	シンクロスコ	ュープによる波形観測	7 交流の分圧と電位差							
8	位相差の測定	È	8	交流ブリッジ						
9	変圧器の極性	生	9	コンデンサの測定						
10	合成抵抗		10	インダクタンス測定(1)						
11	単相半波整流	忙回路	11	インダクタンス測定(2)						
12	RC直列回路	各の特性測定	12	論理回路(組み合わせ)						
13	R L 直列回路	各の特性測定	13	トランジスタの静特性						
14	RLC直列回	13路の特性測定	14	トランジスタのスイッチ動作						
15	RLC並列回	13路の特性測定	15	トランジスタによるフリップフロップ						
	授業方法 業の進め方)	電気通信工学科作成テキストに	に示し	た内容に従い、実習を行う。						
	到達目標	・各種電気実験が指示通りできる・各種電気実験に対して、意欲的		こ。 姿勢や安全に対する心構えができていること。						
	戈績評価の 方法と基準	・実習ごとの作業内容の完成度 ・授業態度(関心・意欲・思考・ 以上2項目を合計し、評価点をご	判							
	美時間以外に 必要な学修	・自宅学習による授業ごとの予習 ・課題、レポートは期日までに作								
	多に当たって の留意点	授業態度点は、授業中の私語な 的な姿勢があるかどうかなどの ¹		Rり、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極 O行動を評価するものである。						

科目名	ネット!	フーク実習	英文名	Network	Practical Work			学科科目 番号	2-8	
担当者	國府 拓治 実務経験 の有無			有	有 選択 必修 科目 必修 区分			専門科目・実習		
開講期	通年 前期:2 時間(回数:15 回) 後期:2 時間(回数:15 回) 授業時数 60							60 時間		
教材 教具	電気通信	言工学科作成テキスト								
担当者 の実務 経験	電子部品	電子部品メーカーにて製品の開発・設計・CAD 等利用								

【学修内容】科目のねらい(目的)

電気通信技術者として理解しておくべきネットワーク技術を学習する。簡単なネットワーク環境を実 現しPC間通信を行うことで理解を深め、通信トラブルに対する原因調査と対策が出来る能力を養うこ

とを	を目的とする。								
	【授業計画】	コマシラバス (前 期)		コマシラバス(後 期)					
1	0S の役割理解	解、PC 基本操作	1	ネットワークツールの理解(nslookup) IP アドレス確認					
2	コマンドによ	こる操作:基本操作	2	ネットワークツールの理解(arp) MAC アドレス確認					
3	ファイルシス	ステムの理解	3	TCP/IP プロトコルを使っての通信(1)					
4	コマンドによ	こる操作:ディレクトリ構造	4	TCP/IP プロトコルを使っての通信(2)					
5		こる操作:ファイルの管理	5	TCP/IP プロトコルを使っての通信(3)					
6	コマンドに 御	はる操作:プロセスとジョブの制	6	UDP/IP プロトコルを使っての通信(1)					
7	コンピュータ	アのハードウェアと構成	7	UDP/IP プロトコルを使っての通信(2)					
8	-	マとプログラムの基礎理論	8	UDP/IP プロトコルを使っての通信(3)					
9		、ワークの構成理解	9	ネットワークツールの理解(Telnet) 遠隔操作					
10	ネットワーク の理解	の種類理解及び通信プロトコル	10	ネットワークツールの理解(FTP) ファイル転送					
11	ネットワーク	ソツールの理解(ping) 接続確認	11	ネットワークツールの理解(Wireshark 1) パケット情報					
12	ネットワーク 路確認	フツールの理解(route print) 経	12	ネットワークツールの理解(Wireshark 2) パケーット情報					
13		カツールの理解(tracert) 経路確	13	ネットワークツールの理解(Wireshark 3) パケーット情報					
14		フツールの理解(netstat) ポート	14	ネットワークツールの理解(Wireshark 4) パケ					
15	確認 ネットワー <i> </i> 情報確認	クツールの理解(ipconfig) 設定	15	ット情報 ネットワークツールの理解(Wireshark 5) パケ					
	授業方法			ツト情報					
	授業万伝 :業の進め方)	電気通信工学科作成テキストに	こ示し	した内容に従い、実習を行う。					
		コンピュータネットワークの概	既念を	と理解し、基礎的な実務ができる。					
	到達目標	・TCP/IP と UDP/IP を理解し、情	報も	?キュリティの重要性について理解する。					
		ネットワーク状態を確認するコージョン	コマン	/ドの基本的な活用が出来る。					
F-	対績評価の	・実習ごとの作業内容の完成度:	70%	6					
	方法と基準	・授業態度(関心・意欲・思考・							
).	7四乙基中	以上2項目を合計し、評価点を1	100片	点法で算出し、60点以上を認定とする。					
	業時間以外に ・ 自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。								
业	必要な学修・課題、レポートは期日までに作成して提出する。								
履修	多に当たって	授業態度点は、授業中の私語の	き居ま	民り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極					
	の留意点	的な姿勢があるかどうかなどの平	☑素 ∅	つ行動を評価するものである。					
•									

※授業の1単位時間は45分とする | 学科科目

科目名	コンピョ	ュータ実習	英文名	Compu	ıter	Trai	学科科目 番号	2-9			
担当者	・ 寺見 ま	ゆみ	実務経験 の有無	有		選択 必修	必修	科目 区分	専門科	目・実習	
開講其	月 通年	前期: 4時間(回数	: 15 回)	後期	: 4	時間(回数:	15 回)	授業時数	120 時間	
教材 教具		更えるかんたん Word&E	xcel 完全力	ガイド	ブッ	ク 困~	った 解決	₹&便利	技(技術評	論社)	
	第 アプリク * * <td< td=""><td>ケーションソフトインス 目のねらい (目的)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></td<>	ケーションソフトインス 目のねらい (目的)									
)基礎を学び、文書、表	1	の作品	艾が、						
	【授業計画】	, ,,,,,		,	Б.		コマシラク		後期)		
$\begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}$		Word の概要と基本操作		1 2			既要と基準		修正•移動	. → 1aº.)	
	2 文字入力をマスターする 3 ビジネス文書の其木 (逆付州・安内州)					,,-			修止・移動・行列の追	,	
	3 ビジネス文書の基本(送付状・案内状)4 文書作成(書式設定)								・11列の追 冬正・コピ [、]		
				4 5		,,-	(関数の		<u>多</u> 皿・コヒ)	
			17	6	表の作成(書式設定) グラフの作成(棒グラフ・円グラフ・折れ線グ						
7	表を使った	文書作成基本		7	ララ		1 // (1+)		14222	D N 0/010	
8	表を使った	文書作成(申請書・議	事録)	8	グラ 変見		作成(レー	イアウト	、 の変更・ラ	デザインの	
9	表を使った	文書作成(調査報告書	• 設備表)	9	グラ	ラフのイ	作成 (グ	ラフ要素	長の追加と	編集)	
10	図形やテキ	ストボックスを使った	文書作成	10	10 グラフの作成(複合グラフ・スパークライン)						
11	図形やテキ	ストボックスを使った	文書作成	11	Exc	e1 応月	月(関数原	芯用)			
12	文書内に画	「像を挿入する		12		e1 応月 呆護)	月(条件作	大書きた	、・ 入力規則	リ・ブック	
13	Word 応用 イアウト)	(セクション・段組み・	ページレ	13	Exc	e1 応月	月(データ	タベース	、機能・テ-	ーブル)	
14	Word 応用	(置換・パスワード設定	• 校閲)	14	Exc	el 総台	ì				
15	前期期末試	謙		15	学生	F末試!	倹				
	業方法 の進め方)	与えられた練習課題	を基に、プ	文書、	表、	グラフ	等の作成	えを行う。	0		
到	達目標	Word、Excel を用い	て書類、表	き、グラ	ラフ	等の作	成ができ	ること。			
	成績評価の 方法と基準 ・実習ごとの作業内容の完成度および期末(学年末)試験評価:70% ・授業態度(関心・意欲・思考・判断・技術表現・安全等):30% 以上2項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。										
	時間以外 要な学修	・自宅学習による授業・課題、レポートは期	•				-				
	履修に当たっ 授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極 ての留意点 的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。										

※授業の1単位時間は45分とする | 学科科目

科目名	CAD 実習	3	英文名	Elec	ctric	draf	iting		学科科目 番号	2-10	
担当者	金平 和	歌子	実務経験 の有無	7	有	選択 必修	必修	科目区分	専門科目	1・実習	
開講期	通年	前期: 4時間(回数	: 15 回)	後期	月: 4	時間	(回数:1	5 回)	授業時数	120 時間	
教材 教具	ドリルつ	で学ぶ Jw_cad 第4版(F	I経BP社)								
担当者 の実務 経験 【学修		ス GOLD 代表取締役 目のねらい (目的)									
		内な作図方法、電気シン	ボルの作図	図、電	気回	路図、	等が描け	ること	を目的とす	る。	
	授業計画】	コマシラバス(前	期)			1	コマシラノ	ヾス(後	& 期)		
1 ソ	フトのイン	/ストール、各種設定		1	各種	機能の	確認、練	習課題			
2 基	本操作の資	美習		2	課題	演習①)				
3 作	成コマン	ドの演習①、練習問題		3	課題	演習②)				
4 作	成コマン	ドの演習②、練習問題		4	課題	演習③)				
5 作	成コマン	ドの演習③、練習問題		5	課題	演習④)				
6 作	成コマン	ドの演習④、練習問題		6	課題	演習⑤)				
7 編	集コマント	ドの演習①、練習問題		7							
8 編	集コマント	ドの演習②、練習問題		8	電気	記号の	作図②				
9 編	集コマント	ドの演習③、練習問題		9	電気	図面の	作図①				
10 文	字記入、プ	文字編集		10	電気	図面の	作図②				
11 寸	法記入、、			11 電気図面の作図③							
12 画	層、属性変	变更、線種、色設定		12	電気	図面の	作図④				
13 応	用機能の消	資習、練習課題		13 ファイル変換、印刷							
14 図	面枠の作品	艾		14 データ交換、加工編集							
15 前	期期末試験			15 学年末試験							
	美方法)進め方)	配布プリント等に示	す課題を見	見て、	正確	に描写	しながら	作図作	業を行う。		
到這	营目標	・CADの基本的な知 ・課題練習や課題作品			. –	_	•	と。			
	・中間時期に授業で行う試験、期末(学年末)試験:20% ・実習ごとの作業内容の完成度:60% ・技法と基準 ・授業態度(関心・意欲・思考・判断・技術表現・安全等):20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。										
	間以外に な学修	・自宅学習による授業・課題、レポートは期									
	履修に当たって 授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授業に取り組む積極 的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。									組む積極	

の留意点

※授業の1単位時間は45 △しする

							※授業	の1単位	佐時間は 45 /	分とする
科目名 ホ	3 ホームルーム		英文名	Home Room					学科科目	1-16
担当者三	三井 和一郎、生藤 佑城		実務経験 の有無	無選択			必修	科目区分	→ 投払 目	
開講期	通年 前期:	1 時間 (回数:		後期:	1	- 12	(回数:		授業時数	30 時
教材 電気通信工学科作成テキスト										
【学修内容】科目のねらい(目的) 1年生:岡山科学技術専門学校の学生としての心構え、クラス作り、成績と出欠の重要性、学校行事 2年生:進路について、企業訪問、履歴書の書き方、就職試験、入社に備えて、卒業に備えて 詳しい内容については、ガイドブックにある、年間指導計画(HR)に準じて取り組む。										
【授業	計画】 コマ	シラバス(前	期)			Ξ	コマシラ	バス(後	炎期)	
1 自己紹介、個人面談 2 科技専の教育方針、目指す学科像 3 学生生活のしおりの諸規定 4 学科の目指す資格と受験指導 5 学生としての自覚と責任について 6 中間試験について、保護者会について 7 夏期休暇中の過ごし方について 8 前期期末試験について 9 前期活動の反省と後期の目標について 10 学校行事 11 個人面談 12 進路について 13 履歴書の書き方 14 企業説明会について 15 企業訪問のやり方等個別指導				1 個人面談 2 進路資料室における求人票検索方法について 3 企業訪問のやり方の説明 4 企業訪問時の注意とその後の対応について 5 就職に必要な書類の揃え方と送付方法 6 就職試験時の身だしなみについて 7 面接練習 8 前期試験について 9 学校行事 10 個人面談 11 社会人としての心構え 12 企業人としての心構え 12 企業人としての考え方や心構え 13 企業でのコミュニケーションの必要性について 14 学年末試験について 5 卒業式について						
授業方法 進路実現に向けた取り組みを行 (授業の進め方) 入社試験に対応した教養と、1				スマナ	ーを	中心とし	ノて指導	する。		
【学校行事について】 ① 学校行事に積極的に参加す ② 与えられた役割に責任を持 ③ 学校行事を通じてコミュニ 【就職活動について】 ① 企業訪問でのマナーを身に ② 就職試験に必要な書類の書 ③ 就職試験の取り組みを身に 【マナー】 ① 社会人としての心構えを身 ② 企業人としての考え方や心 ③ すべての取り組みに対して		さん 付き付 に構え 付きる けを	ョンに身になる。	能力: 付け: 付け:	る。 る。	を理解で	する。			
成績評価の 方法と基準 成績評価はしない。										
授業時間以外に ・企業に提出する書類を、完成で 必要な学修 ・企業訪問、就職試験を行った場										
履修に当た	- L J C/	施内容に対して							業に取り組	む積極的

な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。

科目名 ビシネス教養 英文名 Business Skills 担当者 三井 和一郎 実務経験 の有無 無 選択 必修 必修 科目 区分 開講期 通年 前期: 1 時間(回数:15 回) 後期: 1 時間(回数:15 回) 授 教材 専門学校生のための就職筆記試験対策問題集(ウィネット)、勝つための就職を教具 ィネット)	学科科目 番号 一般	1-17						
担当者 二井 和一郎 の有無 無 必修 区分 開講期 通年 前期: 1 時間(回数:15 回) 後期: 1 時間(回数:15 回) 授 教材 専門学校生のための就職筆記試験対策問題集(ウィネット)、勝つための就職を教具 ィネット)	一般	1						
教材 専門学校生のための就職筆記試験対策問題集(ウィネット)、勝つための就職を教具 ィネット)		(科目						
教具 ィネット)	授業時数	30 時間						
	 tガイド st	ıccess (ウ						
【学修内容】科目のねらい(目的)	教具 イネット)							
【学修内容】科目のねらい(目的) 《前期》社会人として必要とされる論理的文章の基礎を習得させ、履歴書作成の土台となる文書作成 手順を理解させることを目的とする。 《後期》社会人となるための知識や態度を養うことを目的とする。								
【授業計画】 コマシラバス(前期) コマシラバス(後身	期)							
1 ガイダンス+基礎テスト 1 人間はなぜ働かなければなられるで表します。 2 プライベートと社会で求められる文書の違い 一伝える相手のその目的ー 2 職業について理解する 職業観について 3 事実と意見を区別する 事実を思い出すトレーニング 一ブレーンストーミングの活用ー 3 企業は学生に何を求めているが 企業は学生に何を求めているが 自分自身の今日までの歩みにつるがある。 4 自分自身の今日までの歩みにつるがある。 5 将来何をしたいのか。 そのために今必要なことは何が 人生設計について・進路計画が 後期中間試験 7 前期中間試験 7 後期中間試験 8 手紙文の基本形一基本ルールの確認ー 9 手紙文の基本形一基本ルールの確認と成作ー 9 社会人としての心構え 10 段落の役割を捉える 10 社会人として求められる資質 社会人としてぶさわしい身だり 社会人としてかきわしい身だり 社会人としての指示の受け方、 12 グラフや表から正しい情報を抜き出す 12 社会人としての指示の受け方、 13 グラフや表から正しい情報を抜き出す 13 場所に応じた挨拶の仕方	1 人間はなぜ働かなければならないか 勤労観について 2 職業について理解する 職業観について 3 企業は学生に何を求めているか 4 自分自身の今日までの歩みについて 5 将来何をしたいのか。 そのために今必要なことは何か 6 人生設計について・進路計画について 7 後期中間試験 学生生活と社会人生活の違い 9 社会人としての心構え 10 社会人として求められる資質 11 社会人としてがおられる資質 11 社会人としての指示の受け方、報告の仕方 13 場所に応じた挨拶の仕方 14 社会人としての話の仕方・手紙の書き方							
授業方法 (授業の進め方) 入社試験に対応した教養と、ビジネスマナーを中心として指導する	っる。							
【文書作成について】 ①文書を作成する際に、事実、意見を峻別することができること。②事実を根拠として自ら意見(考察)を作成することができること③「事実と意見の2段落構成で報告書(レポート)を作成」するこ④ブレーンストーミングを使って、文書の材料となる事実や体験できること。 ⑤手紙文の基本ルールを理解していること。 【読解について】 段落の概念を理解。グラフや表を理解し、正しい情報を抜き出する【マナー】 社会人として恥ずかしくない作法を身につける。	(考察)を作成することができること。 で報告書(レポート)を作成」することができること。 って、文書の材料となる事実や体験を収集することが していること。 表を理解し、正しい情報を抜き出すことができること。							
成績評価の / 成績評価の / 大法と基準 / 後期》(後期中間試験+前期期末試験)/2×0.85+出席点15点 / 後期》(後期中間試験+学年末試験)/2×0.85+出席点15点								
授業時間以外に ・自宅学習による授業ごとの予習・復習を心掛ける。 必要な学修 ・課題、レポートは期日までに作成して提出する。								
履修に当たって 授業態度点は、授業中の私語や居眠り、机上整理や言葉遣い、授 の留意点 的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動を評価するものである。	受業に取り	組む積極						

科目名	一般教績	É		英文名	Liberal	Arts			学科科目 番号	2-12
担当者	生藤 佑城			実務経験 の有無	無	選択 必修	必修	科目 区分	一般	 対科目
開講期	通年	前期: 1 時間	(回数	: 15 回)	後期:	時間	(回数:1	5 回)	授業時数	30 時間
教材	専門学校生のための就職筆記試験対策問題集(ウィネット)、勝つための就職ガイド success (ウ									
教具	ィネット	\)								

【学修内容】科目のねらい(目的)

就職活動に向けた具体的な取り組みやその方法について理解することを目的とする。 社会人となるため考え方や心構えなどについて理解することを目的とする。

【授業計画】 コマシラバス(前期)			コマシラバス (後 期)					
1	1 求人票の見方について			ボーリング大会について				
2	2 進路資料室における求人票検索方法について			内定先企業の報告と、今後の企業との応対について				
3	3 過去の受験報告書の見方と受験対策			個人面談				
4	企業訪問のやり方の)説明	4	学園祭準備 (その1)				
5	電話機を使って電話	舌のかけ方のロールプレイング	5	学園祭準備 (その2)				
6	企業訪問時の注意と	その後の対応について	6	イベント等への積極的参加とチームワークの必要性、共同作業での注意事項				
7	前期中間試験		7	後期中間試験				
8	就職に必要な書類の		8	社会人としての心構えについて(その1)				
9	就職試験の時の身だ	ごしなみについて	9	社会人としての心構えについて (その2)				
10	面接練習①		10	冬休みの心得、内定企業への年賀状送付について				
11	面接練習②		11	卒業及び工事士認定について				
12	12 入社試験の体験者のクラスでの報告(その1)			企業でのコミュニケーションの必要性について				
13	13 入社試験の体験者のクラスでの報告(その2)			学年末試験結果の卒業への影響について				
14	14 前期試験について (受験に際しての注意等)			卒業式について				
15	15 前期期末試験			学年末試験				
				ビジネスマナーを中心として指導する。 題集などを活用しながら基礎学力を身に付けさせる。				
	到達目標 就職活動を容易に行うことがで 社会人としてのマナーや心構え							
	成績評価の (前期)(前期中間試験+前期期 方法と基準 (後期)(後期中間試験+学年末]末試験)/2×0.85+出席点 15 点 試験)/2×0.85+出席点 15 点					
	授業時間以外に 必要な学修 履歴書の作成、面接練習などを							
	履修に当たって の留意点 社会人となるための基礎基本と		となる	る事柄であるので、真剣に取り組むこと。				